

# 飼料を変えると会津地鶏の生産指数が変わる

福島県農業総合センター畜産研究所養鶏分場  
平成18年度農業総合センター試験成績概要

## 1 部門名

畜産 - 鶏 - 畜産ほ育・育成  
分類コード 07-04-40000000

## 2 担当者

小林雄治

## 3 要旨

所得の相関が高いといわれている生産指数を比べてみると飼養管理マニュアルに基づくブロイラー用飼料を用いた方が経済的に有利であることが確かめられた。餌付けから120日齢までの飼料給与量は、飼養管理マニュアルに基づいた方が一番少なく、飼料要求率が最も良いことがわかった。解体成績では、各区とも体重に対するもも肉、むね肉、ささみの割合に大きな差はみられなかった。

- (1) 生産指数は、マニュアルに基づくもの76.6、幼すう飼料と大すう飼料の組合せ68.8、大すう飼料のみ45.5となり、経済的に有利なのは生産指数が一番大きい、マニュアルに基づくものであった。
- (2) 飼料要求率をみると、マニュアルに基づくもの3.4、幼すう飼料と大すう飼料の組合せ3.7、大すう飼料のみ4.3となり、マニュアルに基づくものが有利であることがわかった。
- (3) 餌付け時に40gでスタートした体重は、幼すう期で給与飼料による違いが大きくあらわれ、その後中すう、大すうと大きくなってもその差が縮まらなかった。特に、55日齢までにできた約200gの差は出荷までそのままであった。
- (4) 解体成績では、体に対するむね肉、もも肉、ささみの割合は、20～22%、12～13%、3.3～3.7%と大きな差はみられなかった。

## 4 その他の資料等

なし